

ちば通研だより No.495

千葉県手話通訳問題研究会 (発行責任者) 米田 市子 (編集者) 渡辺 正夫
住所: 〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内
FAX: 043-247-1201 E-Mail: syuwa@nifty.com URL: <http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

第 57 回全国手話通訳問題研究集会 ～サマーフォーラム in かごしま～

障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行されたり、障害者差別解消法の合理的配慮が民間事業者にも義務化されたりなど、きこえない人を取り巻く社会状況は日々変化しています。

また、2025年11月には100周年となる記念すべきデフリンピックが日本で開催されます。このような中、徳島に続き鹿児島でも対面での夏の集会が開かれます。

鹿児島の実行委員会では、鹿児島県の特色を活かした集会にしていこうと努力しています。記念講演、4つの講座、6つの分科会を設定して、皆さまをころから歓迎すべく準備を進めています。現地で大勢の人と会って手話で話をするのが待ち遠しいです。鹿児島の地で会いましょう。是非、多くの方の参加を期待しています。

サマーフォーラム in かごしま

日 時: 2024年8月23日(金)～25日(日)

会 場: 鹿児島市宝山ホール・鹿児島大学郡元キャンパス

申込締切: 2024年6月14日(金)

申 込 先: ちば通研事務所にメールかFAX(早朝・深夜不可)で送ってください。

集会の案内書などが、全通研ホームページの「行事案内」に掲載されています。



5月28日時点でのちば通研の会員数は277人

(読者会員会員数は11人)

2024年度の目標数は330人です

数は力! みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク

愛称は「ふいーる(feel)」です。可愛がってね。

1

全通研創立50周年記念 キャッチコピー 「50年の絆その先へ 歩み続ける全通研」

ちば通研Eメールアドレス syuwa@nifty.com

代議員会 報告

代議員会出席のため、米田会長と一緒に5月25日、26日と神戸に行ってきました。3年連続で「ウクライナ及びパレスチナ地域における即時停戦を求める」特別決議、新たに「優生保護法訴訟の原告の勝訴と優生思想のない社会を求める」特別決議が承認されました。

<組織の名称は団体からのメッセージ>

本部から組織・事業の見直しについての案が出されました。今回は説明のみで採決対象の議案ではありません。現在の事務局+7つの部を、事務局+3つの部に統廃合しスリム化、業務内容の見直しをするというものです。4支部8人と理事を加えた10人のグループで意見交換をしました。事業はもちろん継続するもの見直しでは「組織部」と「健康対策部」という名称がなくなります。それに対し「運動のための組織作りを大切にしてきた全通研からその名称をなくしてよいのか？健康問題がなくなっていないのにその名称をなくし、もう解決したと思わせて良いのか？全通研が運動団体であると分かる名称は必要であり、健康問題に取り組んできた経過を大事にしてほしい」との意見が出されました。ちば通研でもこのような議論を通して、自分たちの活動のあり方を確認する機会にしたいと思いました。

<合理的配慮とは何か>

差別解消法の改正により事業者の合理的配慮も義務となりました。障害の有無にかかわらず、その人らしさを認め合いすべての人が暮らしやすくなるための前進のほが。ある地域では、例えば聞こえない人が受診する際の手話通訳者を行政が派遣していましたが、この改正を受け「病院が手話通訳者を用意すべき」として、行政が通訳者の派遣を断るケースが出てきているそうです。事業者への働きかけがないまま、このような無責任を許すわけにはいきません。手話通訳制度が後退しないよう、各地域で目を光らせなければなりません。



<なぜ健康問題が無くならないのか？>

頸肩腕障害で仕事や活動ができなくなった仲間や先輩方がいます。だからこそ私たちは健康問題の大切さを広め、これ以上自分も仲間も苦しむことがないように学習を続けてきました。それなのに「なぜ病気になる人が0にならないのか？」そんな質問が出されました。遠隔通訳、電話リレーサービス等の多様化する通訳場面、求められる技術の違い、雇用形態の違いから横のつながりを持たない通訳者。0にならないどころか、数字に表れないままに苦しんでいる人がいるかもしれません。学習の継続、啓発が今こそ必要です。

<鹿児島で五感を研ぎ澄ます>

コロナ禍を経て、私たちはオンラインの便利さを知りました。移動に時間やお金をかけず、育児や介護等の事情があっても学習に参加でき、合理的に情報を得ることができます。それでも全通研が一堂に会することをやめないのは、『全国の仲間と会い、「感情」を「思い」を通じあうことに私たちの活動の本質がある』からと、近藤副会長が最後にまとめていました。

サマーフォーラム、全国の仲間と会いに行きませんか？

代議員会ブロック別会議（関東） 報告

4月28日(日)、13:00～16:40まで、かながわ県民活動サポートセンターにて、全通研代議員会ブロック別会議（関東ブロック会議）が開催されました。千葉支部から、代議員の折原、米田、山田（代理）の3人が出席しました。

最初に、3月に急逝された相川会長を偲んで1分間の黙祷を行いました。その後、全通研本部執行理事の渡辺正夫氏より、代議員会の議案書について説明がありました。

関東ブロックとして代議員会で意見を述べるため、支部ごとに全通研への意見、質問、課題、要望等を出し合いました。

関東ブロックからは、①サマーフォーラムの在り方について、②けいわんの実態調査の方法について、③けいわん患者会の在り方について、④健康普及員研修について、⑤研究誌、会報の電子化、郵送方法について、⑥会員拡大の施策、SNSやホームページの活用について、⑦手話通訳のあり方検討について、⑧代議員会の開催場所について等の8項目をまとめ、意見を述べる担当支部を決めました。全通研の代議員会は、5月25日、26日に神戸で開催されます。（会長 米田 市子）



関東通研定期総会・支部代表者連絡会議 報告

5月11日(土)、10時より第21回関東通研定期総会が開催されました（代議員数25人のうち、出席者21人、委任状提出者4人、オブザーバー1人）。初めに、永年関東通研の会長を務めてこられた東京支部の相川浩一氏のご冥福をお祈りする黙祷を行いました。2023年度は集合での会議や学習の機会を増やしました。2024年度はハイブリットによる開催を視野に入れ、関東分校を関東通研学習会という形にして、支部の枠を超えた学習を企画することになりました。皆さんもぜひ参加してくださいね。また、2023年度に関東通研が20周年を迎えたことから、関東集会前夜祭を検討しています。さらに、相川氏のご遺言により10万円のご寄付をいただいたので、20周年記念誌を作成することになりました。

午後は1時より支部代表者会議を行いました（本部理事2人を含む22人が出席）。関東ろう連といかに連携を図るか、災害発生時に関東でどのような支援体制がとれるのか、デフリンピック気運醸成の各支部の活動状況などについて話し合われました。

最後に、桐原理事から、能登半島地震災害支援について報告をしていただきました。聞こえない人たちの施設再開に向けた取り組みについてのお話がありました。アマゾンプライムが被災地への配達をしてくれるようになったことで、必要物資のミスマッチがなくなったと聞き、目から鱗が落ちる思いがしました。（副会長 高橋 悦子）



2024年度支部代表者

「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol.3

家族の思い 前社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会後援会理事長 福岡貞良氏より

お子さんの秀雄さんは平成27年に他界されていますが、秀雄さんの思いを、お父様が代わりに書いてくださいました。

「生きるための手話」

僕（福岡秀雄）は、生まれた時から大きな障害があり、最も重い心臓の奇形や、右目は何とか見えているが、将来網膜剥離を発症の恐れもありました。父母はかなりのショックだったと思います。4歳の時東京女子医科大学付属病院で心臓の大きな手術をして、何とか成功しましたがドキドキの発作は注意が必要とのことでした。

その後の検査で、聴覚障害と知的障害が判明して、両親は聞こえないので、生活するのにコミュニケーションが一番大切と考え、千葉県立千葉聾学校（千葉市鎌取）幼稚部に入学させました。母の車で通学しました。学校はキュードでの指導で、とても難しかったです。父母も一緒に覚えようとしてくれました。

父は何とか僕とコミュニケーションをとろうと成田市の手話サークルに入り、手話の勉強を50歳で始めました。そして覚えたての手話、トイレ、痛い、食べる、お菓子など毎日根気よく教えてくれました。すぐに覚えたのは「ウンチ」「おしっこ」で「痛い」と「苦しい」も何とか覚えました。

中学生になったけど、僕の頭の中は小学2年生。でも絵を描くことが大好きで、家中の壁やドアに描いては父に叱られたものです。父は僕の持っている障害とどう接したらよいか悩んでいたようですが、母は僕の気持ちを汲み取ってくれて優しくかったです、

中学卒業間際に、八街市福祉課の担当者が自宅に来られ「埼玉にろう重複の施設ができて、県外からも6名入所できる」ということでした。身体障害者授産施設ふれあいの里どんぐりの家が開設されたのです。千葉県にはまだ同じような施設はありませんでした。

「秀雄さんは聴覚障害と知的障害を併せ持っているので、対応できるのどうか」と勧めてくれました。早速体験入学をしました。父が教えてくれた手話で、話が分かり少し安心しました。

ある日家にいた時、突然心臓がドキドキ苦しく立ってられない。手話で「痛い」とやると、父は僕の首の静脈が波うっている状態も見て、医師から教えてもらった応急処置をしてくれて、何とか治まりました。「痛い」の手話と苦しい顔の表情が父に伝わり、命拾いをしたのです。施設の中でもけがや腹痛の時「痛い」の手話で看護師さんに的確に対応してもらいました。

父は千葉県で始まった「ろう重複障害者施設をつくる会」の活動に参加していました。僕も何度か連れて行ってもらいました。僕が入っているどんぐりの家のような施設を必要としていた仲間と家族、それを応援してくれる人たちとの交流会など楽しい経験でした。

…この文について父より…

今は亡き息子ですが、息子が日頃感じていただろうことを息子の目線で書かせていただきました。「痛い」の手話は大切な言葉でした。私たち両親はお前から多くの人生に役立つことを学ばせてもらったよ。「ありがとう」

次回に続く⇒

特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL.6

「ちば通研とのファーストコンタクトは医療班！」

海匠地域班 外口 晴久

私が手話の世界に初めて触れたのは、平成10年の旭市手話講習会でした。そこで聴覚障害の皆さんが病院で大変困っているという事を知り、勤務先の総合病院国保旭中央病院内に手話クラブを作った事が今考えると手話について行動を起こした最初の一歩だったと思います。

ちば通研との最初の出会いは、平成11年9月に手話クラブ主催で院内講堂において医療班の高田智子さんを招いての講演会「聴覚障害者と医療」を開催した事でした。この講演会が好評だった事もあり、同年11月に飯泉よし江さんを招いての講演会「聴覚障害者の方々と共に」を開催しました。このどちらの講演会も全通研千葉県支部（現ちば通研）海匠地域班のご協力をいただき開催したもので、これが全通研との出会いでした。



【医療班講演会 1999年9月】

その後、旭中央病院病院長に「院内に手話通訳が必要です」と意見書を提出した事から、「じゃあ、君が通訳の勉強をなさい」と言われ、平成15年度千葉県手話通訳者養成講座（基本課程）に通う事になり、この時に全通研に入会しました。全通研入会と同時に医療班に誘われ、特に坂本先生と岩井さんにはいろいろな事を教わり、時には宿題を出された事もありました。知らない事を学ぶのは楽しく、とても新鮮でした。

その年の8月に船橋市で開催された手話を考えるフォーラムの医療分科会で旭中央病院での活動をプレゼン発表しました。その隣の部屋でサークル分科会が行われていたのですが、当時の千聴連と全通研千葉県支部から突然の県サ連立ち上げ発表があり、分科会が大混乱になったという話は後から聞きました。その後、私本人が望むと望まざるに拘わらず県サ連の波に大いに巻き込まれていき現在に至ります。

今現在、私は旭中央病院を定年退職し、新たに自分の事業を始めました。この歳で自営業になってみると、やる事の多さにキリキリ舞いの毎日ですが、この原稿を書いているうちに忘れかけていた様々な事を思い出す事ができました。今日をきっかけに初心に戻り、ちば通研に入った時の、あの時の新鮮な気持ちで、様々な局面に対処していこうと思います。

最後に、「全員主役 全員集合 全員笑顔」ちば通研よ永遠なれ！



医療班コーナー

腰痛予防

前回は腰痛についてでした。今回は腰痛予防です。

《予防と対策》

① 良い姿勢を身につける

- ・ 反り腰（腹筋が弱く、お腹が出ている）に注意する
 - ・ 腹筋を鍛え、リラックスした良い姿勢をとる
- ☆あごを引いて背筋を伸ばす➡おへそを引っ込めるようにしてお腹に力を入れる
➡その姿勢のままお尻を締め付けるようにする

② 日常の動作に気を付ける（膝を上手に使う）

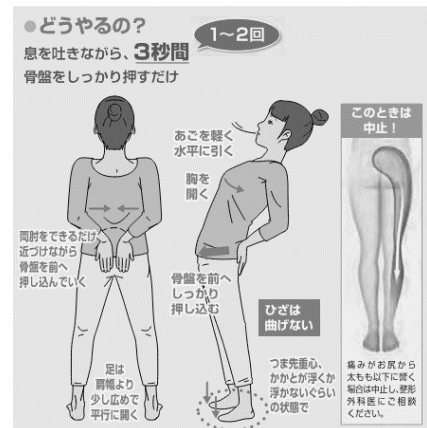
- ・ 立位・ ・「キヲツケ」の姿勢ではなく「ヤスメ」の姿勢で
立って仕事をする時は片足を台に乗せて
洗顔の時は膝を曲げて
- ・ 座位・ ・腰にあてるクッションは硬めで低めのものがよい。前傾姿勢を避ける
車の運転は座席に深く腰掛け、膝を曲げるようにシートを調節
- ・ 寝る・ ・横向きで丸くなる。仰向けの時は膝下に座布団を敷き、軽く膝を曲げる
- ・ 荷物の持ち方・ ・膝を曲げ深く腰を下ろし、荷物は正面で体の中心まで近づけて
から持ち上げる。前かがみにならないよう背骨をまっすぐに

③ 運動やスポーツで筋肉を鍛える

腰痛予防体操

ストレッチで腰部を中心に腹筋・背筋・臀筋などのインナーマッスルの柔軟性を維持するとともに、筋肉の疲労を回復することが大切です。

おすすめは「これだけ体操（厚労省）」



④ ストレス対策

ストレスの原因を知り、うまく付き合う方法を見つけることが大切です。

とりあえず安静は**ダメ!**

～新常識～

一般的な腰痛は、安静にしていると回復の経過や今後の予防に好ましくない為できる範囲で、仕事などを含む普段の活動を維持することが大切です。



e ~ 会報

2024年5月20日発行（第196号）
発行：一般社団法人全国手話通訳問題研究会
〒602-0901 京都市上京区室町通今出川下ル繊維会館内
電話：075-451-4743 / FAX：075-451-3281
メールアドレス：NRASLI@zentsuken.net

全通研 Web オープンスクールを開催！ 「全通研創立50周年～そのあゆみと運動～」を学ぶ

5月18日（土）13：30～15：30に全通研 Web オープンスクールが開催されました。渡辺正夫会長が「全通研創立50周年～そのあゆみと運動～」をテーマに全通研の理念や歴史、特徴的な活動などを話しました。

取り組みます」などが書かれた決議文が満場一致で可決されました。全国のさまざまな立場でろう者や手話通訳活動に関わる人たちが準備を進め、1974年6月3日に全国手話通訳問題研究会が結成されました（会員数287人）。

1990年には47都道府県に支部が結成され、2004年には会員数が10,737人となりました。手話通訳制度の確立をろうあ連盟とともに進め、手話通訳者の健康を守る運動や、手話通訳者の身分保障を訴えて活動を続けてきました。

創立50周年にあたり、全国にいる仲間とともに発展する組織にしていくことが大切です。そのため私たちは、「ろうあ者の暮らしから学ぶ、ろうあ者集団と共に歩む、ろうあ者の権利を守る手話通訳活動」という原則に立ち返って学んでいく必要があります。みんなの力を結集し、少しでも未来を明るくし、みんなが幸せになっていくよう、一緒に前に進みましょう！

講演の資料は、全通研ホームページから参照、ダウンロードできます。ぜひ、支部の仲間と共有してください。



3 全通研の発足

決議文

- ・ ろうあ者の生活と権利を守る基本的立場において通訳活動の実践にとりくみます。
- ・ 通訳活動の実践を通じてろうあ者問題の認識を深めそれをより多くの人々に広めます。
- ・ 私たちは常にろうあ運動と連帯し、手話通訳保障の実現につとめます。
- ・ 私たちは手話通訳者の身分保障、活動保障を実現させるために努力します。
- ・ ろうあ団体と協力して手話通訳者の全国的な組織をつくります。当面ブロックでの組織化をはかります。
- ・ 私たちは手話および通訳問題の研修を深めます。



1972(昭和47)年6月3日

(全通研発足時の決議文について話す渡辺会長)

【講演の要旨】

1968年に福島県で開催された全国ろうあ者大会の際に手話通訳者会議が企画され、ひとりぼっちで活動している手話通訳者が集まり、語り合う場が必要だと感じたことが全通研発足のきっかけとなりました。その後、話し合いが継続し1972年の集会では、「ろうあ者の生活と権利を守る基本的立場において通訳活動の実践に

やなぎだハウスの修繕完工式の報告(令和6年能登半島地震)

4月29日(月・祝)に、石川県鳳至郡能登町にある能登就労継続支援事業所「やなぎだハウス」の修繕完工式が行われ、やなぎだハウス利用者、来賓、関係者が参加しました。全通研からは桐原理事が参加しました。やなぎだハウスは聴覚障害者災害救援基金(支援金)を活用して修繕が完了し、5月から週3日の運用、6月からは通常の運用を目指すことになるなどの説明がありました。

4月28日(日)には災害救援対策本部第2回会議と石川県聴覚障害者災害救援対策本部との意見交換会も行い、引き続き支援活動および支援金・義援金募金活動を続けていくことを確認しました。(詳細は、全日本ろうあ連盟ホームページに掲載)



～TMG～

TMG (楽しく (T) 未来社会 (M) 学習班 (G)) のページ



楽しく未来社会学習班・TMGが今年度からいよいよ本番スタートします(しかしほとんど去年から本番みたいなものですが)。

そこで、再度TMGが目指している学習活動内容をご理解いただき、ともに学習していただければと思います。

基本は、『マンガで読む手話通訳事例集』の内容を確認・学習しながら、更にその通訳現場で起こっている問題の原因を解明し、それをなくしていく具体的方法・具体的働きかけの仕方を身につけていこうとする学習会です。

例えば学校行事に参加する聞こえない人への通訳依頼は誰がするのか・お医者さんが最後に言った「お大事に」の意図が伝わらないのは？

等々、皆さん一緒に学習していきませんか？お待ちしております。



読みたい見たい

2024年5月号(第115号)

一般社団法人全国手話通訳問題研究会

Tel:075-451-4743/Fax:075-451-3281

E-mail: NRASLI@zentsuken.net

URL: <https://zentsuken.shop-pro.jp/>

Facebook: 全通研(zentsuken)

Twitter: @zentsuken_1



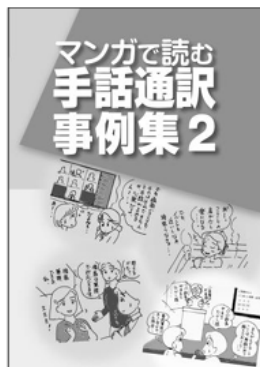
マンガで読む手話通訳事例集

手話通訳現場で起こる事例を4コママンガで表現！

(イラスト：池内のりえ)



価格 1,070円(税込)



価格 1,100円(税込)



価格 1,100円(税込)

電子書籍も
発売中！

電子書籍は
Amazon Kindleで

Amazonのアカウント
登録で、電子書籍を
お買い求めいただけます。



発行：一般社団法人全国手話通訳問題研究会／編集：一般社団法人全国手話通訳問題研究会・手話通訳活動あり方検討委員会

日佐戸輝さま ご冥福をお祈りいたします

かずさ班 川根 薫

訃報が届き、私の大切な人がまた一人、そばに居なくなって…。と寂しく、生前の日佐戸氏の色々な表情のお顔を思い浮かべながら、今ペンをとっています。

皆さんもご存じかと思いますが、昭和40年代、県の身障団体の一本化の方針に伴い、肢体不自由、盲、ろうそれぞれの団体を一つに、社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会にまとめ、身障関係各団体活動、補助金、各事業について協会を窓口にして動いていた時期があり、その協会にろう関係の相談、日曜教室、手話通訳の養成・派遣等が組み込まれ、その設置通訳者として私が勤めていました。

そして日佐戸氏は、協会の役員、理事を経て理事長に就任され、同じ事務所で私と日々顔を合わせ活動していたのです。私が職場でお会いしていたころの日佐戸氏は、頑固一徹というか血気盛んという言葉がぴったりといった感じで…との印象でした。会議などでもちょっと薄くなった頭から湯気を立てそうに怒ったり、強い言葉を投げかけたりといったことを覚えています。

そんな関係から、聴覚障害担当の私と毎年足りなくなる通訳関係の予算についても他の障害関係と比べろう関係ばかりに多く使うのはおかしいのではないかと、県に補正要求を出すのは?!…。と私と何度も議論し、時に机をたたいて怒っていた場面も懐かしく思い出されます。

ですが、ただ頑固なだけではなく、しっかり話を聞き、考えてくれ、後に補正予算要求のための資料をもって、共に県に出むいてくれたはじめての理事長であったのも日佐戸氏だったのです。

そんな日佐戸氏、同じ障害者同士ろくに話もできないのはよくないと自ら手話の講座を受講し、野田市の手話サークルにも積極的に参加、運営にもかかわって…。

故川根会長(当時ろうあ者相談員として協会に勤務する日があった)の手すきを見つけては手話を習い、聴覚障害の困難さについて学んだりそんな光景も印象的でした。そして、全通研の会員としても共に学び、活動してきたことは皆さんご存じの通りです。

また、日佐戸氏のもう一つのライフワークである自身の戦争体験を踏まえ、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に伝えようと本の執筆や子供たちに語り継ごうと足の障害が重くなり車いすに乗るようになっても学校をまわり講演を続けたり等々、亡くなるまで頑張っていたと聞いています。

そんな最近の日佐戸氏の柔和で優しいお顔が思い出されます。

いくつかの思い出話をしましたが、私にとっての日佐戸氏は「上司」であって「同志」、そして、色々な嘆きや憤りを生き方のエネルギーに変え、社会に発信、貢献してこられた私の「師」でもあります。

日佐戸さん。どうぞ安らかに眠りください。(2024年4月20日ご逝去100歳)



【食事会 2019-10-18】



【告別式 2024-4-25】

私のイチオシ 松戸班

私のイチオシは「お手紙」です。

いただいた年賀状の短信を読むことには軽い喜びがあります。プリントだけだと味気なく、やはりひと言ふた言自筆の言葉がある方が、いただいた側としては嬉しいものです。

仕事でこれからはばらくお付き合いをする人には、短いお手紙を書くようにしています。メールでのやり取りが主流の今だからこそ、お手紙を書くこと、受け取ること自体が新鮮な体験だと思うからです。ペンを持って思いを巡らす時間、切手を貼って投函する手間、確かにお手紙は、「時間」と「手間」を厭わない気持ちが伝わる温かみのあるツールです。内容よりもむしろ、受け取った人に「オヤッ」と思ってもらうこと、「そういう人なのだなあ」と感じてもらうことに重きをおいているような気がします。

感覚的ではありますが、その後のお付き合いに若干ながら影響しています。そして、「時間」と「手間」が伝わるよう、そう願いながら投函します。

*

ちなみに、筆記用具にはそれなりのこだわりがあります。

ペン：モンブラン マイスターシュテック 149 ペン先M

インク：ペリカン 4001 ローヤルブルー

用紙：神楽坂にある山田屋か相馬屋の格子柄原稿用紙（数年に1度まとめ買いします）

・山田屋さんは10年ほど前に廃業され、もう手に入りません。

手元に1冊だけ残っており、それを大切に使っています。

・相馬屋さんは、正式には相馬屋源四郎商店、1659年創業です。

北原白秋、石川啄木、坪内逍遙や夏目漱石などの御用達で、

直筆の原稿がお店に展示されています。

こうした筆記用具を前にすると、何か背筋がピンと伸びた感じがして、心地良くお手紙が書けます。

20代の時から続けている大切な習慣です。

(渡辺敏郎)



地 域 班 通 信

船橋班：桜の花びらも散り若葉が芽吹き、季節は初夏へと移った。昨年の今頃は愛犬と新緑の香りを感じながら散歩をしていたのに…今日は寂しいひとりでの散歩。心の中で「見て、ほら～」と愛犬と会話をしながら歩く。散歩の時いつも会っていた犬友と出会うが、その子は感じてくれるかな？「あれ、あの子いないねって…」(S・N)

富里班：新学期が始まり、新一年生が毎日ピカピカのランドセルを背負って、通学している可愛い姿を見て、癒されてます。上級生のお兄さんお姉さんが、通学時や学校内でお世話をしていると、「あーこの子達も一年生の時にお世話をしてもらって来て、同じ様にお世話してるんだなあー」と優しい気持ちになります。私も見習って優しくしたいと思います♪

六つ星班：今年度の手話奉仕員養成講座は前期が行われます。私が受講した、前期から統一試験までの5年間は、新型コロナウイルスの影響を受けた期間でもあり、透明マスクやフェイスシールドなど、新たなアイテムの導入もありました。学びの中ではちょっぴり涙なんか流しちゃったこともあったけど、それも今となっては良き思い出です。

鎌ヶ谷班：4/7、手話歌で有名な「ハンドサイン」さんのチャリティライブに行きました。テーマは「いのちの電話」。手話は聞こえない人の言葉であり聞こえない人達の言語です。ろう者の参加者も多くたくさんの手話ベリを目にしました。実はこのコンサートに息子が手話歌パフォーマーとしてゲスト参加しました。親としてワクワクドキドキの時間でした。(M・I)

白井班：家族や子ども達の写真を納めた大量のアルバムの整理を始めました。記念として残した写真なので楽しそうな表情であふれているのは当たり前なのですが「子ども達、一生懸命生きてきたんだなあ」と感慨深い思いがしました。コンパクトにするのが目的ですが時間がかかりそうです(笑)

印西班：昨年庭木の剪定を始めました。仕上がりの充実感が楽しくてたまらず、今は伸びた枝を見ると体がうずうずしてきます。刈り込むときの手に伝わる感覚、何とも言い表せない喜びを感じます。高木もあるためケガに注意しながら、長く楽しめる趣味の一つとして大事にしていきたいと思えます。

わかしお班：爽やかな5月、毎年我が家に来るお客様も姿を見せてくれました。つばめです。駐車場の細長いライトの上に巣があり毎年そこで子育てをします。以前は左右に一個ずつあって、見た人が「二世帯住宅だね」と笑っていました。驚かさないう車のドアをゆっくり閉めて、そっと窓から覗く毎日、じーじとばーばの気持ちで見守っています。頑張れ～(K・U)

海匠地域班：GWは4日連休で、掃除！と決めていました。初日は草取り。「おはようございます」と、知らない男性の声。カップルで、自転車に乗った女性が先に、頭にスカーフを巻いていました。男性は歩きで。2人で自国に帰る日を楽しみに働いているんだ、と勝手な思い込み。声を掛けてもらって気分も良く、今年のGWの良かった事です。

流山班：流山デフ協会開催の月4回程度の手話カフェ。市の高齢者福祉センター森の倶楽部の利用者向けにということで開店しましたが、市内外の手話関係者が多く訪れています。インスタで開業日の告知をしていますので、よかったら足をお運びください。

(emiko)

千葉市班：庭の鈴蘭が咲きました。24年前、北海道の母が持ってきた花です。千葉の土地に慣れるまで数年かかりましたが、今は千葉にすっかり馴染み可憐な花を見せてくれます。母の介護は大変だったのか？鈴蘭を見ると楽しかった事ばかり思い出します。鈴蘭の花言葉は「再び幸せが訪れる」です。

八千代班：赤十字の救急法指導員をしている。4月～6月は各小学校の先生とともに救命措置の復習をする。プール学習前の恒例である。資格がなくてもAEDを貼れるようになって20年、知名度は上がり設置場所も増えた。しかし使用率はまだ低い。何にでも共通することだが、知識だけでなく、行動できる人を増やすことが大切だと思っている。

市川班：初めて小湊鉄道に乗車して上下左右に揺られながら上総牛久まで。手話講座仲間の車に乗り換えチバニアンへ。今回のガイドのSさん、説明もお上手（口頭）でしたが、なんと最初に手話でご挨拶いただき、その首にはなんとあの指文字ストラップが！ちょっぴりうれしくなりました。

市原班：千葉県出身の料理研究家リュウジさん。手軽に作れるレシピの中でも我が家でバズったのは、茄子の唐揚げ。一口サイズに切って、白だしに漬け込んだ茄子に、片栗粉をまぶして揚げるだけ。子供が苦手な野菜でしたが、レシピのおかげで克服。今ではすっかり定番メニュー。これからの季節、お酒のアテにもオススメです。

八街班：先日、南房総の大房岬にて磯の生き物発見ツアーに参加しました。ウニやヒトデ、オニヤドカリにナマコ等生き物をたくさん採取しました。子どもよりも大人が本気になって探しました。良い息抜きとなりました。

成田班：一念発起して終活を始めました。まずは今まで見て見ぬ振りの外物置から。長期保存の水も賞味期限切れ。雨漏りもして地面に接した段ボールの一部は土に変わりとつあり資源ごみには不可。いろいろなものがたくさん出てきましたが、殆どを処分しスッキリ、次は室内～！

松戸班：5/9 松戸班学習会でした。メインはイラストを見て代表者が手話でイラストを表し、それを見た人たちがイラストを描きます。全員が描き終わったら、「向きは合っているか？」「細かいところはきちんと見たか？」など皆で検証しました。後半はデフリンピックの種目になっている競技の単語表現をしました。時に大笑いしながらも、良い学習会となりました。聞こえない人のイラスト表現が簡潔なのに分かりやすく、勉強になりました。（担当 O, N, K）

役員短報

日時：4月27日（土） 9:30-11:45

会場：オンライン

参加者：米田、高橋、折原、矢吹、
渡辺正、河野、宮下、平野、
田村、渡辺裕、山田

<主な議題>

○三役

- ・新芽まつりに出店する。お米、献品、書籍を予定。
役員、サポーターズで担当する。
献品については地域班を通じて呼びかける。
- ・会計について、会員に理解してもらうためのチームを立ち上げる。
- ・役員に配布する必携を5月末までに修正して6月の役員会で確認したい。

○広報部

- ・6月号掲載記事の確認をする。
- ・11月号は500号となる。そのため記念になる記事を掲載したい。

○組織部

- ・会員拡大 211人（4月22日現在）
- ・5月中に会費を納入しないと6月号からの配達ができないので早めに会費を納めるよう地域班に呼びかける。

○役員から

- ・会員のニーズに応じた学習方法について検討していく必要がある。
- ・本部からの情報を地域班の班員にどこまで提供するのかについて、地域班会議で状況を把握して検討していく。

<部・班の報告>

○三役から

- ・全通研創立50周年記念事業でのグッズを新芽まつりと6月の地域班会議で現金と引き換えで配布する。

○広報部

- ・編集委員に富里班から1人新たに加わっていただいた。

○組織部

- ・ちば通研講座Ⅰは、アンケートから分かりやすかったとの感想が寄せられた。
- ・2024年度地域班の手引きを作成している。6月の地域班会議で配布する予定。
- ・6月2日（日）は9時30分から千葉市中央コミュニティセンター6階講習室4にて地域班会議を開催する。
地区別会議も設定している。

○研究部

- ・ちば通研集会に向けて会議を早急に開催する。

○健康対策班

- ・ちば通研講座Ⅱの講師について打診をする。

○楽しく未来社会学習班

- ・場所を東金市ふれあいセンターに変更して開催する。オンラインも継続する。

○後援会

- ・地区から後援会担当を選出している。
2024年度から3年間継続することを確認する。

○関東手話通訳問題研究会

- ・4月28日（日）ブロック別会議をかながわ県民センターで開催する。
- ・5月11日（土）関東通研総会と支部代表者連絡会議を埼玉県越谷市中央市民会館で開催する。

今後の予定

○6月2日（日） 地域班会議・役員会
N-Action ちば学習会

○6月6日（木）～9日（日）
全国ろうあ者大会（和歌山）

○6月9日（日） 健康対策班学習会

○6月12日（水） 組織部会議

○6月15日（土） ろう教育班学習会

○6月15日（土）～16日（日）
日本手話通訳士学会・総会

○6月23日（日） TMG学習会

○6月26日（水） 広報部会議

○6月28日（金） サポーターズ印刷日

○6月30日（日） 医療班学習会

お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.coccan.jp>

QRコードでホームページに
アクセスできます。

会員専用ページは
パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail : syuwa@nifty.com

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本
名もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は6月15日(土)です。

E-Mail : c-koho@c2ken.sakura.ne.jp

FAX : 043-247-1201 (早朝・深夜は不可)

会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以下
のとおりです。なお、申し訳ありませんが振
込手数料はご負担ください。複数人まとめての
納入は、全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円 (聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号 : 00120-4-708239

加入者名 : 千葉県手話通訳問題研究会

けいわん 110番

<医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座 (衛生学)

TEL : 077-548-2187

FAX : 077-548-2189


<仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX : 057-451-3281

*何かありましたら、いつでも、ちば通
研健康対策班に、ご相談ください。

FAX : 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練
をしています。最近は、災害はいつ起きて
もおかしくない状況です。そのため、会員
の安否確認をよりスムーズにするため、専
用のフォームを開設しました。 
災害の時は、自分から
アクセスして状況を
ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1Tct53>

あ と が き

「地域班通信」と「私のイチオシ」に
は、各班の皆様から寄せられた多様な
記事を掲載しています。先日、「八街班
の方がイチオシした『オリーブ石鱈』を
試してみたらすごく良かった」と話し
かけられました。反響があると嬉しいです。

通研だよりは会員さんたちの交流の場
でもあります。「お知らせ」欄にあると
おり、原稿はいつでも募集中です！ (K)

ミュージカルが大好きで時間とお金の
余裕があれば毎日でも観たいくらい。先
日やっと「アニー」を観ることができ
ました。皆さんご存じの「トゥモロー」の
歌詞と歌声は心に響きます。「朝が来れば
いいことがある。辛いことも忘れる。涙
の後も消える。トゥモロー♪」憂鬱な思
いが吹き飛び元気になります。「あしたは
幸せ」と信じてがんばろう！ (S)